

第2学年 算数科指導案

日 時 平成27年10月23日(金) 5校時
児 童 男子16名 女子13名 計29名
指導者 川井 隆太

1 個人課題 自分の考えをもち、友達との交流によって、思考・判断できる子どもの育成
～ 互いの考えを視覚的に明確にしたペア・グループ学習を通して ～

2 単元名 かけ算(1) 「新しい計算を考えよう」 東京書籍 新しい算数 2年下 p21

3 単元について

(1) 児童について

本学級は、個人で意欲的に取り組む児童は多いが、ペアやグループでの学習場面において、自分の考えを発言するのみで、他の児童の考えに興味をもてない児童が多い。基礎・基本的な知識を理解できる児童は多いが、学習内容を考える場面では挙手する児童が少ない。自分の考えを発表する場面では、限られた児童による発言が多くなる。この点については、間違いや失敗を恐れていることによるものと考えられる。新たな問題にチャレンジしていけるように、誤答への配慮を心掛けていく。

本単元に関する既習内容としては、第1学年において、「10がいくつで何十」という数の理解を基に、10のまとまりをつくりその数を数えて総数を求めたり、2とびや5とびで総数を求めたりするなど、同じ数のまとまりの個数を数え、ものの総数を求めるといった乗法の素地的な経験をしている。

(2) 教材について

本単元の目標は、「1つ分の数が決まってい、そのいくつ分かにあたる大きさを求める場合に、乗法が用いられることを理解」することや「乗法九九を構成したり、その過程で乗法九九について成り立つ性質に着目したりするなどして、乗法九九を身につける」こと、そして、「乗法九九を生活や学習の中でも活用できるようにすること」をねらいとしている。具体的には、ものの全体の個数を把握する際に、「1つ分の数」に着目し、それをひとまとまりとみて、その「いくつ分」ととらえることについて、乗法の場面を絵やアレイ図、おはじきなどの半具体物を用いて表すことで、乗法の意味や構成の仕方、性質などについて理解を深めていく。

4 本時の指導(22時/25時)

(1) 目標

式から図、図から式に表現することを通して、被乗数・乗数の意味を理解することができる。(知識・理解)

(2) 個人課題や共通課題との関わり

個人課題と関わって、自分の考えをもつためには、すべての子どもたちが学習課題を理解し、「どうすればよいのだろうか」と興味・関心をもつことが必要であると考え。そのために、既習内容との比較や類推を行いながら、問題提示を工夫していく。本時の学習では、これまで学習した通りに式を書けば、どちらも「 2×5 」ではないかと発問し、問題に対する意欲へとつなげたい。

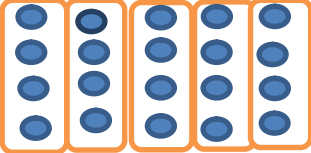
共通課題と関わっては、本時の授業においては、ペアでの学習活動を設定する。その際に、自分の考えに

ついて、根拠をもって発表できるように、言葉と図を用いて考える活動を取り入れる。根拠をもとに発表することで、互いの考えの共通点・相違点に気づき、学習内容の理解を深めていきたい。本時の授業では、教師から次のような働きかけをすることにより、「自分の考えをもち、友達との考えの共有によって、思考・判断できる」子どもの姿に近づけたい。

- 考えをゆさぶる発問をし、学習課題への意欲を高める。
- 学習内容や子どもの考えの視覚化を行う。
- かけ算の式の意味の理解を深めるために、言葉とアレイ図を関連させてように促す。

(3) 展開

	学習活動	指導上の手立て
導入 8分	<p>1 問題を把握する。</p> <p>○二つの問題を提示し、式を全体で考え、違いに気付く。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p>① えんぴつを1人に2本ずつ、5人にくばります。 えんぴつは、ぜんぶで何本ありますか。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p>② えんぴつを2人に5本ずつくばります。 えんぴつは、ぜんぶで何本ありますか。</p> </div> </div> <p>・1つ分の数が違う。 ・①の問題の1つ分の数は2、②の問題の1つ分の数は5。 ・答えは違う。</p> <p>2 本時の課題を把握する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: 80%;"> <p>2つのもんだいのしきやこたえをくらべよう。</p> </div>	<p>○二つの問題を提示し、問題の意味が違うことに気付かせる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>★☆☆視点1(学習課題への意欲)</p> <p>①②の二つの問題の式は、どちらも「2×5」ではないかと発問し、子どもたちの考えをゆさぶる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なぜ、式が違うのかを考えようとしている。 ・二つの問題を比べて読もうとしている。 ・どのように考えれば、違いがわかるか考えようとしている。 </div>
展開 25分	<p>3 課題の見通しをもつ。</p> <p>○①の問題の式やアレイ図、答えを全体で確認する。</p> <p>○何に着目するか考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「1つ分の数」、「いくつ分」 <p>○違いをどのような方法で見つけるかを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おはじきやアレイ図など <p>4 自力解決を行う。</p> <p>○②の問題を自力解決する。</p> <p>○ペア学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ノートを見せ合いながら、友達に自分の考えを伝える。 	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>★☆☆視点2(学び合い)</p> <p>考えを視覚的に表すことができるアレイ図や文章を用いて、自力解決を行う。ノートに書いてある考えをもとに、お互いの考えを交流し共有する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えを発表したという充実感・成就感を味わっている。 ・自分の考えをより確かなものにしたり、修正したりしている。 ・友達との学び合う楽しさを感じている。 </div> <p>○自分の考えを、言葉や図、アレイ図などと合わせて、説明するように促す。</p> <p>○友達の考えに対して、質問や意見、感想を言うように促す。</p>

	<p>5 学び合う</p> <p>○自分の考えを，全体場で発表し共有する。</p> <p>○かけざんの問題を解くときの重要な点を，みんなで学び合う。</p>	<p>■「1つ分の数」「いくつ分」の違いに気づくとともに，被乗数・乗数の意味を理解している。</p> <p><ノート・発言></p>
<p>終末</p> <p>12分</p>	<p>6 まとめる</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>1つ分の数といくつ分に気をつけて，もんだいをとく。</p> </div> <p>7 適用問題に取り組む。(プリント)</p> <p>① 教科書 p.21 の問題。</p> <p>② 図から式に表す問題(右の図)。</p>  <p>8 本時の学習を振り返る。</p>	<p>○二つの問題の違いを整理しながら，かけ算の大事な点についてまとめる。</p> <p>○学習の振り返りでは，本時の学習での自分の考えの変化や友達との関わり，今後の学習についてなどをノートに書くことを確認する。</p>

★ 個人課題

☆ 共通課題

■ 評価

○ 指導の手立て ・ 予想される児童の考え